

弘法山ハイキング

【コースのご案内】 ご注意・出口2箇所有り

小田急・鶴巻温泉駅 (鶴巻温泉側・新宿を背に右側)

(9.00)集合・[新老人の会・旗目印]

出発(9.00) - - 吾妻山(9.45) - - 善波

峠 - - (11.30)弘法山 - - (12.00)権

現山(昼食)(13.00) - - (14.00)登

山口 - - 秦野駅・解散

山頂に水道有り・昼食時お茶を用意します、またお湯だけでも提供できます。

【コースの概略】 鶴巻温泉駅から温泉郷を通り、美ゆき旅館の角を曲って東名高速の下をくぐり鶴巻園の所から登山道に入ります、十五分程で石の標識が有り善波峠からの道と合流、東名高速の騒音が薄れる頃、吾妻神社の石碑と東屋の有る松林の吾妻山に到着します。この先は稜線伝いに進み、やがて東海道裏街道であった「矢倉沢往還」善波峠分岐に出ます、往還の切り通しには、小さな石仏が数体いしえを物語つて居ります。ここからは木の間越しに景色を眺めながら進み少し急な登りで「弘法山」山頂です、眺めは一方だけですが山頂には、関東大震災までは湧き水が有り二つも池が有ったそうです、現在は昔懐かしい井戸ポンプが有り、小さな池も有り、昔は乳白色の水が湧いて居たと云う「乳の井戸」や「鐘楼」「大師堂」などがあります。権現山までの尾根道は秦野の名所の桜並木で少し急な登りで権現山到着です、山頂は広い芝生で、水道、トイレ、記念碑等が有り、この会のサポーター、坂口さんのご友人の石工さんが作った立派な望楼が有り、360度の

眺めの素晴らしさは時間を忘れる程で、此処で昼食です。この先も平坦な整備された道を浅間山まで進み、ここからは一気に急斜面を下り「秦野ハイフォン」と云う水道施設の有る登山口、幹線道路に出ます。これを横断して水無川沿いに市街地を秦野駅向かいますが、もし、ご希望があれば右岸に出てレンタカーの営業所の手前を左に曲がると、小さな小屋掛けの「弘法の清水」が有り、絶え間なく水のわき出ているのが見られます。【弘法山・雑記】 弘法山は、弘法大師がこの山の上で修行したのが名前の由来とか云われていますが、所謂何処にでもあります、弘法伝説の様で、山頂に水が湧いて居るなど超自然的な現象に結びついた物と思えます。実際は古来相模の霊山として遠くの人々が信仰する処で、龍法寺の背後にある弘法山は、頂上に水がある不思議と、その風光から特別の信仰を寄せらる処となつて居て、龍法寺五世無外梅禅和尚の代に、此処に磐岳永芳和尚という人が、山頂に「一宇を建立して、「釈迦堂」となし、その側に庵を構えて、「福泉庵」と称して、初めて此処に住んだと云

われていません、この釈迦堂は、釈迦堂と称しながら、本尊釈迦如来と弘法大師が併座して居り、世間では「弘法様」で通つて居りこれが弘法山の由来だと思います。此処には水が在る為、人も住み且つ又多くの人を訪れる処ともなりまして、此処にある古井戸の水は乳のように白く人々は「乳の水」と称してこの井戸の水を求めて、この水で産婦に粥を炊いてやれば必ず乳が出るという信仰から多くの人が訪れた様です。また、山頂には、「弘法山の時の鐘」として多くのの人に親しまれて居る梵鐘があります、当初宝暦七年(1757)にあつた梵鐘がその後四十年余で壊れてしまい、この改鑄を発願したのが江戸隅田川成林庵に居られた「松操智貞禅尼」と云う方で、之が完成したのは、享和元年(1801)でした。

【弘法山の千本桜】 弘法山の桜は、明治三十七八年日露戦争の勝利を記念して当時の大根村長平井守蔵氏が、桜の苗木を寄進植樹、その後大正天皇の即位を記念して南矢名青年会の人々が、馬場から千畳敷まで植樹、立派に成長しましたが、第二次大戦中に伐採されてしまつた。戦後になつてから公園として植樹し管理され、現在は「千本桜」と呼ばれた花見の名所として復活したものです。

